

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等			
事業毎の通番		5	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	城山(じょうやま)	
事業概要	事業目的	H28年9月19日から20日の台風16号の豪雨により、城の沢の上流左岸の山腹が崩壊し、崩壊した土砂が土石流となって下流に流出し、下流にある市道及び墓地に被害を与えた。今後の降雨により、崩壊地の拡大及び渓流内の不安定土砂が流出する危険性が高いので、谷止工及び山腹工を施工し、流域の土砂災害の防止を図る。					
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1地域防災力の向上		事業実施の根拠法令等	森林法		
	関連する事業、計画等						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家1戸(1事業所)、市道小牧丸子線100m					
	着手年度	平成29年度	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	平成32年度	費用対効果	1.25	国庫	その他	県債
	全体事業内容(主な工種)	谷止工 3個 山腹工 0.15ha 土留工(鋼製)1個、簡易法枠700㎡			97,600	48,800	43,920
	28年度事業内容(主な工種)	谷止工 1個			45,300	22,650	20,385
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	山腹崩壊箇所の拡大崩壊及び渓流内の土砂流出を防止することで、保全対象の安全が確保される。				
		間接的効果(定量的・定性的)	地域住民の安全・安心な生活環境の保全に寄与する。				
評価の視点	必要性	○人家戸数: 1戸 ○公共施設数: 2箇所 ○災害時要援護者関連施設の有無: なし ○保安林・林業用施設: 土砂流出防備保安林 100%				評価	B
	重要性	○過去の災害履歴: H元年台風豪雨による土砂流出 ○交通遮断による地域経済への影響: 市道小牧丸子線が遮断の場合、国道18号への迂回が必要 ○地域防災計画上の位置付け: あり				評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C): 1.25 ○事業期間: 4年間(H29~H32) ○工法等の比較検討: 検討なし ○流域の総合調整: 上田市、上田建設事務所と調整済み				評価	B
	緊急性	○流域の地形、地質: 第3紀層(礫岸) ○平均渓床勾配(平均山腹勾配)平均渓床勾配12° ○下流の堰堤等の整備状況: なし ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域: 崩壊土砂流出危険地区				評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有: 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み: 上田市から林務部長へ要望あり ○地域の合意形成: 事業目的について地域合意形成は得られている ○住民との協働: 墓地に流入した土砂は墓地管理者が自力で片付けた				評価	B
	部意見	H28年9月に土砂が流出し、今後の降雨により再流出する恐れがある。下方に市道・鉄道等があり早急に対策を行う必要がある。	行政改革課意見	流域内には不安定土が存在し、今後の降雨等により土砂流出の恐れがあるため、重要性、緊急性が認められる。	評価結果	○	総合評価

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

【整備の必要性がわかる状況写真等】

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	計画地は過去に台風等の豪雨で土砂流出があり、県単治山事業で谷止工1個を施工している。その後は災害が発生するような豪雨はなかったが、平成28年9月19日の台風16号による豪雨で山腹崩壊が発生し、崩壊土砂が土石流となって下流の市道小牧丸子線に流出し、土砂撤去の3日間通行止となった。この市道は依田窪地域(丸子、武石、長和町)の住民が市内への通勤等に利用されており、通行止の期間は迂回路である国道18号線でひどい渋滞が発生した。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成28年9月20日に上田市から災害発生との連絡があり、林務課と合同で現地調査を実施した。平成28年10月28日に上田市が林務部長へ早期の災害復旧要望を行っている。
③事業説明等の経緯	上田市との合同調査後の当日に、調査結果及び今後の復旧予定を説明した。上田市に計画箇所の土地所有者等に事業実施と保安林指定の承諾を依頼した。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	谷止工及び山腹工及び仮設工(索道、仮設道路)の工事では、立木伐採を必要最小限に抑える。また、谷止工の施工中は廻排水を確実にを行い、沢水の汚濁を防止する。
⑥地域活性化への影響と配慮	
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36-22-30 東経:E 138-16-00